

ネット 漂流

狙われた子どもたち

Vol.78

SNSで注意したい写真の取扱い



ネット情報技術推進ネットワーク株式会社
篠原 嘉一（しのはら・かいち）

撮影罪が2023年7月13日に施行された。これまでは盗撮事件は各都道府県の条例が適用されていたが、現在は撮影罪が適用される。この撮影罪は保存や提供なども処罰の対象となるため、友達から送られてきた盗撮画像を「保存」した場合も含まれてしまう。

しかし、撮影罪が新設されていることを知らずにいる学生は多い。保護者もうちの子には関係のない話だと思っているだろうが心配なアプリは増えている。これまでのInstagramやTikTokに加え、BeReal（ビリアルまたはビリアルと読む）というフランスのアプリ。

BeRealは2020年公開のアプリだが、急激にユーザー数を増やしている10代20代に人気のアプリだ。

「1日に1回だけ投稿ができる・古い投稿は消去される・他人の投稿は見れない」——この項目を見ると安全に感じるが、撮影時にインカメラとアウトカメラが同時に起動する。写真機能は流行りの加工ができないので盛ることができない。つまりリアルな「今」を共有することを目的としている。しかしルールがあり、「BeRealの時間です」と運営側から通知が届くと2分以内に投

稿をしないと友達の投稿が見れなくなる。場所を変えたり、加工修正したりする時間を与えない。まさにリアルな様子が投稿されるアプリだ。

そこで心配なのは、授業中であろうと通知が届くと返信のため、授業を抜けてトイレで撮影する生徒が増えている、と高校や大学で問題になりだしたことだ。仕事中にビリアルを使用したトラブルは今のところ耳にしないが、場所をわきまえずに撮影をすると盗撮を疑われてしまうのは大人も同じだ。

撮影罪は、自撮りであろうと裸や下着姿であれば罪に問われかねない。たとえ罪に問われなくても、ネットに上がってしまうとコピー画像がどこかで利用されてしまう。そういう写真ほど炎上してしまうのだから、気軽に撮影投稿できるアプリのリスクは高い。

TikTokやInstagramの投稿を見ていると他者をモザイクで修正しているものが増え、意識的にまづい部分を隠している投稿が増えていく。それだけ写真には何気なく写り込んでしまうものが多いのだから、修正のできないアプリでの撮影は問題が起ころかねない。

「自分しか写っていないから大丈夫」と思って投

稿した大学生が、後で大変な思いをしている事例をいくつも見てきたのだが、その多くは消えていくはずのストーリーズ（インスタの機能）での投稿や、非公開でフォローワーにしか見せていない画像でのトラブルだ。

SNSの投稿は「友だち限定」などの言葉から、友達にしか公開していない感覚だが、フォローワーを安易に増やし、実在する人物かどうかも確認できていない人を「友だち登録」しているのだから公開も同じだ。架空の友達になりすました人物に、ダイレクトメッセージ機能で使う非公開画像やプロフィールを見せていることに気づいていない。

ある社会人1年目の女性からの相談は、自分のプロフィールと写真を使って出会い系サイトを利用されていたという、いわゆるなりすましトラブルの相談だった。出会い系サイトは会員登録や有料会員にならないと見ることができないので、なりすまされていても本人は気づかない。しかし、彼女は就職してから、顧客からの指摘で気づいた。それは出会い系サイトではなく掲示板サイトの投稿を指摘されて気づいた。誰かに大学時代の写真と、詳細な出身地などのプロフィールを利用され、出会い系で出会った相手が、写真と違う人物が来てお金を持ち逃げされたことに腹を立て、そのプロフィール一式を掲示板にさらして非難する投稿だった。よく調べ、前後の投稿や他のサイトの様子を見なければなりすましと理解できない内容だったため、掲示板だけ見た顧客は、社員を疑ってしまっていた。掲示板は海外サイトでおそらく何も救済はされないだろう。楽しい記念写真をSNSにあげたことが起因しているが、助ける方法はないSNSの世界なのだ。